

◆福岡市

投稿日：2002年2月24日

氏名：「らくぎ」メンバー（中央区役所全課長）

所属：



中央区役所の「楽議＝らくぎ」

福岡市には7つの行政区があります。地域の総合行政機関として区役所機能を強化しよう潮流の中、区役所のあり方が様々に論じられていますが、当事者である区役所の課長としてもよりよい中央区を目指して、市民の信頼と共感のもとに市政を推進していくために、みんなで考え協力していく場をつくろうという話が持ち上がりました。

それで平成13年12月に第1回の話し合いを持ち、会の名称を「楽議＝らくぎ」とし、座長、進行役、書記を決め、毎月1回区議の後に1時間程度開く事になりました。

その書記に私が、「DNA掲示板(*)に書き込んだことがある」という全くの遊び心で指名されましたので、「まあいいか」と引き受けましたが、会議録を早く書け、そげんは言うたらん、果ては発言してない思いまで追加してくるなど、とにかく騒々しく大変でした。(*DNA掲示板: 市役所のLAN上で職員同士が自由に改革改善に関する情報提供や意見交換を行う電子掲示板のこと) しかし同じ立場で共通の目的の話し合いですから、本音で気楽に話せましたので、白熱したり、驚いたり、ため息をついたり、どの回も制限時間を過ぎましたが、今日まで「らくぎ」を15回、後述の三つの分科会を各4～5回開催しています。

当初は各課の課題やそれに伴う市や区の動き等の報告と意見交換が中心でしたが、次第に区役所の機能、予算、人事といった内容になっていき、同じ区役所の中でも法に基づく義務的業務を担当する課と、地域関連の事業を担当する課では、業務のあり方や予算に対する考え方など、必ずしも同じでないということがよく理解できました。

それでも、事務処理の簡素化や効率化、業務内容の充実などを図り、直接間接を問わず、それぞれの業務を通して「May I Help You?」と市民に思いを馳せながら、サービスの向上に努めるという事は全ての課の共通課題であるとして、そのための施策立案、予算要求、独自事業の推進といったシステムをどうするかなど、様々な課題の意見交換が行なわれ、その中で互いの人柄を知り考え方も理解する事が出来たので、親近感が深まり中央区の職員としての連帯感を強く感じる事が出来ました。

そして、市役所が市民の信頼と共感を得て市民サービスを向上させるには、まず職員が生き生きと仕事出来る環境をつくる事が大切であるということになりましたので、昨年6月から「区役所の組織が全体として有効に機能していくための人事問題」をテーマとして話し合いに入り、9月から「心の健康に関する分科会」「人事制度、慣行に関する分科会」「人材育成に関する分科会」の三つの分科会に分かれて検討し、提言をまとめていく事になりました。

各分科会共、時間外や土日などびっくりするほど精力的に調査検討が続けられ、中間報告ではオブザーバーとして区長の出席をお願いするなどして、本年1月に分科会毎の現状や課題、提言事項を網羅した14頁にも及ぶ人事問題研究報告書が出来上がり、主管部局に提出する事ができました。提出に際しては、このような現場の提案を主管部局が受け止めてくれるのかと危惧する意見もありましたので、主管課において事前に報告書を熟読され、真剣に受け止めていただいと聞き大変うれしく思っています。

この「らくぎ」では自らの業務推進について啓発される事も多く、結論は出なくともそれなりに納得したり、方向性を見出すこともできますし、何よりも良いことは全員が本音で話し合う事が出来ますので、今後とも月1回、気楽に意見を交換する場として継続していくことにしています。中央区のささやかな風ではありますが、私共の思いが爽やかに広がっていくことを願っています。